

柴北川プロジェクト通信 30号

— 平成25年度・田植会とその後の田んぼ — 平成25年6月23日(日)と9月4日(水)

1. 田植会の報告とその後の田んぼ

6月23日(日)に実施した田植会の報告が遅れてしまいましたので、「その後の田んぼの様子(9月4日)」も紹介してお詫びに代えたいと思います。

田植会当日は、福岡からの行きも帰りも雨という状況でしたが、運よく、田植中は雨に合いませんでした。また、波多野会員の呼びかけで、大分市内から子供さん達が大勢参加され、大変盛り上がった田植会となりました。

いつものとおり、もち米の苗から植え始めました(写真右側が柴北川)。



写真一1 田植え開始、気が付けば大塚前会長が田の神様へ豊作祈願か？

2. 子供たち他で最後の仕上げ

この田んぼは、橋の上から見れば狭いように見えますが、中で作業を行えば相当の広さを感じます。それでも大勢で田植えをすれば、約1時間で作業はほぼ終了です。子供たちの中には、田植えに飽きて泥んこ遊びをしていた子もいましたが、最後まで頑張った子供達もいました。大したものです。仕上げの様子は、以下の写真のとおりですが、当会の赤星副会長ご夫婦の姿も見られます。



写真一2 最後の仕上げの様子

3. 楽しい昼食タイム、そして神楽

旧長谷小学校体育館に移動して楽しい昼食タイムです。いつもご紹介していますが、柴北川レディースの皆様方によるランチバイキングは、たくさんの郷土料理の他、デザートやコーヒーもあり、このような機会ではしか楽しめない「豪華なランチバイキング」です。



写真一3 豪華ランチバイキング



写真一4 柴北川レディースの皆様方

また、毎回活躍頂いている矢ヶ部会員が、ギター演奏で昼食タイムをやさしく包んでくれました。

昼食後は、神楽演舞を披露して頂きました。激しい動きと太鼓・笛の迫力には、いつも驚かされますが、会場からもっとも大きな歓声が聞かれたのが、演舞者と子供帯の掛け合いの様子でした。私自身も

笑いこけてしまいました。子供達が大勢参加すればこんなに盛り上がるのかと改めて思いました。
次の稲刈りの時も、子どもたち大勢の参加を心待ちにしています。



写真—5 神楽演舞と子供達との掛け合い

4. 田んぼのその後

正式には決定していませんが、今週秋、柴北川を愛する会と共助研との合同で、当地において「建設コンサルタントの若手技術者を迎えての研修会」を開催予定です。その事前打ち合わせのために、9月4日（木）に、波木事務局長、玉田さん、木寺の3名で「柴北川を愛する会」を訪ねました。穴見会長、赤峰副会長、甲斐副会長そして渡邊事務局長に対応して頂きました。大変ありがとうございました。その時に、田植え後の田んぼの様子を見てきましたのでご紹介致します。

田植えの日から2カ月半ほどしか経っていませんが、稲の成長は早く、うるち米の方はたくさん花が咲いていました。もち米の開花は未だで、背丈の差も大きく、苗の時には良く分からなかった違いが一目瞭然でした。

また、イノシシ避けの電気柵がしっかりしてありました。雑草も生えていず手入れがしっかりされているのが分かります。稲作班長の安藤さん、大変ありがとうございます。今年の稲刈りは、既に10月20日（日）と予定されていますが、まずはその日まで、しっかり成長することを祈っています。

帰途、ご自宅裏の菜園の手入れをされている「前大塚会長」にもお会いできました。いつもの調子で雑談しました。



写真一六 青々とした田んぼ



写真一七 うるち米（左）ともち米（右）



写真一八 シシ避け用電気柵



写真一九 電気柵のバッテリー

5. 稲刈り・研修会に向けて

稲刈りは、10月20日（日）に予定されています。また、冒頭に紹介しましたように、11月には、研修会を開催することを検討中です。

この研修会では、建設コンサルタントの若手技術者を迎えて、参加型計画手法として国際的にも活用されているPCM手法を取り入れながら長谷地区の将来像を語って頂ければと計画中です。その中での話題の一つとして、当地区の石橋群の老朽化問題が上がらないだろうかとこの意見がありましたので、石橋の一つの「樋ノ口橋」に案内して頂きました。大正12年建造のこの石橋は、中央に水路が通っている珍しい石橋の一つですが、側面が雑草に覆われており傷みも進んでいるように見えました。長谷地区には、この「樋ノ口橋」を入れて8橋の石橋があるとのことでした。

田植え、稲刈り、竹林整備そして意見交換会等、毎回、楽しい思いをしながらの活動ができていることに感謝申し上げます。

このような楽しい、しかも有意義な機会を少しでも多くの方々に体験して頂くという意味合いからも、計画中の研修会や共助研活動に、建設コンサルタントの若手技術者が少しでも多く参加できるようにしていければと希望しています。



写真一10 樋ノ口橋（左、右は新橋）



写真一11 松巖寺裏山を背景で（玉田さん撮影）

—— 最も快い会合は、仲間が朗らかに敬意を表し合うような会合である —— ゲーテ

（文責：木寺、写真：波木・木寺他）